

Topics | 北海道支部

都市計画学会第 52 回学術研究論文発表会 in 北海道のエクスカージョン報告～「北海道産業今昔」を見る、感じる

小松正明 都市計画学会北海道支部副支部長

1. はじめに

今回開催された都市計画学会第 52 回学術研究論文発表会 in 北海道は、平成 29 年 11 月 11 日（土）～12（日）の二日間開催されましたが、今回はこれに先立って、11 月 10 日（金）にエクスカージョンとして小樽～余市方面を巡る見学旅行を開催しましたのでその概要を報告します。

参加者は総勢 29 名で、集合場所は新千歳空港と JR 小樽駅とし、それぞれで集合した方にバスに乗っていただき、余市方面へと向かいました。

■北海道のワイン産業の現状と余市でのワイナリー

まず、視察先のオチガビ（OcciGabi）ワイナリーへの移動のバス車内で、NPO 法人ワインクラスター北海道代表の阿部眞久さんより、北海道のワインの歴史、産地の変遷、ワイン産地余市の背景などの紹介をしていただきました。

かつての果樹栽培の技術を生かしたブドウ栽培とワイン造りの中で、名もなきワイナリーが高い評価を得てきた過程。そして良好な自然環境を生かしたローカルワイナリーが増えているのが、ここ余市なのでした。

■オチガビワイナリー視察

オチガビワイナリーは、専務の落 希一郎氏が新潟から移り住んで、平成 13 年に開業しました。落氏はそれ以前に、新潟でカーブ・ドッチというワイナリーを手掛けて大成功を収めていますが、それを手放して人生最後の 20 年でのワイン造りの場として選んだのが余市でした。

彼はここで、大量生産のワインとは一線を画して、本物のぶどうで本物のワインを作り、分かる人だけが確かな値段で買ってくれば良いというワインをつくっています。それこそが真の地域の価値をお金に換える地域振興になるのだと。そんなこだわりの風景のあるワイナリーとワインを感じた視察でした。



【オチガビワイナリーにて収穫直後のブドウ畑を見る】

■ニッカウイスキー蒸留所視察

次に訪れたニッカウイスキー余市蒸留所は、NHK 朝の連続テレビ小説「マッサン」のモデルとなった、日本に本格的なウイスキーづくりをもたらした竹鶴政孝がつくったニッカウイスキーの工場です。ここは、昭和 9 年に創業を開始した施設がほぼそのまま現役で使われていて、蒸留施設も石炭の直火炊き蒸留という、今では世界的にも珍しい伝統的な工法でつくられており、創業当時のこだわりを示しています。

石炭や良質な水、ピート、そして冷涼な気候など、余市の自然が産業を生み今日に至った過程をウイスキーづくりの切り口で学んだ視察でした。



【麦芽を乾燥させてピートの香りをつける乾燥棟】

■炭鉄港物語

最後に、ニッカウイスキー工場から小樽駅までの車中で、NPO 法人炭鉱（やま）の記憶推進事業団常務理事の酒井裕司さんから、北海道開拓当初の産業であった炭鉱の歴史との積出港であった小樽の歴史、そこから生まれた製鉄業による北海道の産業発展史を語っていただきました。炭鉱、製鉄、港湾の三つは、それぞれ空知地域、室蘭、小樽という土地の物語でもあり、これらを合わせ称して「炭鉄港物語」として現在日本遺産登録を目指して活動中です。北海道の初期の産業と炭鉱物語も勉強になりました。

■結びに

総じて天候にも恵まれて、北海道の産業の今昔をワインづくり、ウイスキーづくり、石炭の採掘という切り口で臨んだ「北海道産業今昔」というエクスカージョン。視察先はお酒造りの現場ということもあって、一部には試飲コーナーもあり、北海道の産物を五感で感じることでできたこの視察、参加者からは概ね好評をいただきました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。